

伊藤克敏先生の本学ご退職にあたって

伊藤克敏先生には古稀を迎えられ、まことにおめでとうございます。先生におかれましては、人格的にも、長年一筋に研鑽を積まれた学者としても、また教育者としても人生の頂点にいらっしゃるのに、2005年三月末で定年により退職されることは、学則により止むを得ないこととは承知しておりますが、心情的に本当に残念です。しかしご退職後も非常勤講師として本学科の学生や院生をご指導されることになり、心の安まる想いがいたしております。

先生は、学問的厳しさと豊かなお人柄によってたくさんの方々の人望を集めていらっしゃいますので、僭越に存じますが、先生のご退職にあたって、専門が異なる者として、1974年以来の同僚として、大学の後輩として、また親しくさせていただきました友人として、御挨拶のことばを述べさせていただきます。

伊藤先生は、長年にわたって本学学部の英語教育を向上させるために多大な貢献をされてまいりました。本学大学院においても、創設に尽力されて、現在まで重鎮として英語学に関する演習と講義を担当されております。

先生は、日本児童英語教育学会 (JASTEC) の元会長 (現在顧問)、大学英語教育学会 (JACET) の評議員、英国国際教育研究所 (IEL) の顧問として広く活躍されておられます。さらに全国の大学生によって自主的に運営されている英語強化訓練同好会 (ITC) の顧問として指導にあたられ、これまでに本学の学生をはじめ優秀な人材を育成して社会へ送り出してこられました。

また、横浜言語と人間研究会会長として30年以上も、地域教育のために鋭意専心されております。

先生が企画運営において名人の域に達していることは、専門は違うとは申しましても、私も知るところです。先生は、言語研究センター所長としての3期6年間の在任期間中に、一般人を対象とする英語、フランス語、中国語、スペイン語の講座や、ハワイ大学、Temple大学の講師を招いた連続講演会を開かれました。また、言語研究センター所長を務められていた時に発足された外国語教育研究大会は、本年、第8回英語英文学科主催英語教育研究大会として催されております。先生は本学で、10年ほど前には日本言語学会全国大会を、また昨年度には第6回日本語用論学会全国

大会を実行委員長として開催されたことは記憶に新しいところです。

先生の温厚さにはひとの心を捉えて離さない魅力があります。それは一つには先生の英語力に裏付けられているのではないのでしょうか。

先生が青山学院大学に入学されて間もなく、高等学校の恩師故 M. G. 森先生（後に南山大学教授）の名刺を携えて、学院長の故豊田実先生に挨拶された時に、豊田先生は森先生の教え子であることを知られると即座に流ちょうな英語で “I will include you as one of my English speaking friends” と話されて、ご自身は多忙であると申されると、故加藤正男教授を紹介されたという若き日の体験は、貴重な思い出として先生を支えてこられたのではないかと拝察いたします。

大学をご卒業後、郷里三重県の県立高等学校に勤務されていた時に、キリスト教会の牧師さんがアメリカに帰国されている期間中、牧師さんの代わりに英会話教室の教師をされたこと、私立高等学校に移られてからも教師としてまた研究者として学校長や大学学長の支援に恵まれたこと、アメリカにフルブライト留学されたこと、本学に奉職されてからも青山学院大学勇康雄教授の門下生として研究指導を受けられたことなど、限られた紙面ではとても記しきれないほどこれまで先生の英語学の研究者としてまた英語教師としての数々のエピソードを折に触れて承ってまいりました。

なかでも特筆したいのは、先生が率先されて英語による授業をされたことです。神奈川大学において大学紛争の余燼がまだ残っていた頃、本学科のある男子学生が先生の英語による授業に感動して誇らしく私に話したことが思い出されます。他大学においても、兵庫教育大学大学院、国際基督教大学大学院、青山学院大学大学院、早稲田大学大学院などで英語で授業をされ、また各地で高等学校の教員を対象とする講演会で英語により講演をされております。

脳の言語能力によって8歳までなら native speaker の発話を聞かせることによって正しい発音やイントネーションが児童の口から自然に出てくるという理論 (“the ear and the mouth are intricately linked”) を基にして、先生は日本人の小学校の教師が児童に英語を教えることの必要性を情熱的に力説されております。先生が公立小学校における英語教育の実態調査をされた時、門外漢の私も京都市と金沢市の教育委員会に同行させていただいたことが回想されます。また、数年前、朝日新聞社主催により、小学校の英語教育について故若林俊輔教授とケーブルテレビでディベートをされましたが、沖縄の視聴者の方からも手紙が寄せられたと伺っております。

ただいま本稿を記しながら、先生が碩学であるだけでなく、筋金入りの英語による授業の達人であることを今更ながら痛感している次第です。

十数年来、先生はご研究に没頭される合間を縫って、自彊術で日々心身を鍛錬されて、意気軒昂でいらっしゃいます。近くにはご著書を出版されるとのこと、まことに喜ばしい限りに存じます。

ここに先生のますますのご健勝をお祈りし、一層のご指導をお願いする次第です。

外国語学部教授 岩 崎 豊 太 郎